

成願寺

季報
95

平成 25 年 2 月 18 日
(2013 年)

目次

「行ずることの尊さ」伊藤良仁	1
平成二十五年「大般若祈禱会」挨拶・小林貢人	7
秋の一泊観音詣りの報告	8
秋葉の火祭り・火防大祭参拝旅行の報告／感想文紹介	10
山内短信	12

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町 2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

秋葉の火祭り・火防大祭説教

行ずることの尊さ

可睡齋後堂・山口県洞海寺住職 伊藤良仁

ただいま、齋主老師と別火寮の行者さん方が奥之院御供所へ向かわれまして、これからこの火防大祭でも特に秘法として伝わる「七十五膳御供式」が修行されます。みなさまにはこの御真殿にお残りいただき、齋主老師が御供式を終えて戻られるのをお待ち



可睡齋後堂
山口県洞海寺住職
伊藤良仁老師

ちになられますと、お札と別火調菜神饌のお授けが
ございます。秋葉様と秋葉様の七十五の眷属にお供
えされた神饌をいただくことができる、その尊さを
味わっていただければと思っております。

お待ちいただく時間を利用して、少しお話を
いたします。こちらにお祀りされます秋葉三尺坊大
権現様は、千三百年の昔、越後の蔵王権現堂十二
坊の一つである三尺という僧坊で厳しい修行を重ね
られ、秘密奥義を極めて神通力を得、観世音菩薩
三十三化身の一つ迦樓羅身を感じ得られました。観音
さまは三十三もの姿に変化して、あらゆるものを救っ
てくださる菩薩様ですが、ここで、「迦樓羅身が観音
様の化身なら、なぜ大権現とおっしゃるのか、なぜ
神様なのか」と思われる方がいるかと思ひます。

日本人の信仰について申しますと、みなさまのご
家庭には神棚と仏壇がありかと思ひます。これは
日本人にとっては普通のことですが、外国の方から
見ますと不思議で違和感を覚えるのだそうです。

ですが、日本に西暦五百三十八年に仏教が伝来して、それ以来明治に至るまで、日本人の信仰は神様仏様が一緒でありました。ではその前はどうかであったかと申しますと、我々の先祖は縄文人で、その信仰の対象はお天道様でした。世界にもたくさんお天道様を信仰する民族がありますが、日本では太陽を神格化して天照大神あまてらすおみかみとなりました。仏教にもお天道様を御本体とする仏様がいらっしやいまして、その中心は大日如来なんです。

大陸から仏教が伝わって、もともとあった神様の信仰とどうすりあわせたかと申しますと、実は神様は仏様が化身となって現れた権現だという思想になったのです。天照大神と大日如来、秋葉権現と観音菩薩くわんおんぼさつなどあらゆる神様と仏様を一致させた。これを本地垂迹ほんぢすいじやくと申しまして、明治に神仏判然令が發布されるまで、日本人の信仰はこれであつたのです。

先日、私は初めて熊野本宮大社をお詣りさせていただきました。世界遺産に認定されて以来、熊野古道の寺社詣りをされる方も多いと聞いておりますが、本宮大社の立派な門の側に幟が立っていきまして、そこに「神を父、仏を母といただきて、熊野より興さむ出発の時」。また傍らの看板には「愛いづみ」と書かれ

て人と人との繋がりについて説いてございました。

日本人のルーツの一つであります熊野本宮大社に「神を父、仏を母」と大書されていたことに驚き、また感激したわけです。そして「愛」と書いて「いづくしみ」と読み仮名がふつてございました。「慈」と書くのが一般的なわけでした、「慈」のほうは相手を思いやり、相手のことをよく考えている。一方の「愛」は自分を中心に考えてしまいがちに思えます。どうも「愛」と「慈」では少し意味が違うように思うのです。

それが「愛」の字で「いづくしみ」とされていることに感動したわけです。我々仏教で「いづくしみ」と言いますと観音様なのです。さらに驚きましたのが、本社に鎮座される「熊野牟須美神くまのむすみのかみ」の本地仏が千手観音であるときちんと説明がされていきました。明治までは我々日本人にとって当たり前であつた神仏習合が、熊野本宮大社様では今も当たり前のこととして信仰されているわけです。

神仏と一体になることこそ信仰

こちらの秋葉様は、江戸時代は特に「秋葉信仰」が盛んで、熊野、伊勢と並ぶ庶民の信仰を集めた神様でございます。当時は秋葉山の山頂にあつた秋葉

寺にお祀りされていました。時にはお伊勢詣りよりも盛んであったと記録がございまして、今も秋葉詣りの道が残っております。そこからさらに進みますと長野の善光寺様へと続く。熊野、伊勢とならぶ一生に一度は詣りたい信仰の聖地でありました。

江戸時代には「○○詣り」と言ってお詣りするのと自体が信仰であり行でございまして、信仰というのは頭で考えることではないということです。お詣りすることで神仏と一体となる、これこそが尊い。普段は気づかない自分のなかの仏や神の部分が、神仏のお祀りされた地に詣でること、神仏と感応して引き出されてくるわけです。

考えてみますとご信仰というのは、井戸と似ています。昔の井戸は水が出ないときどうしましたか。桶に一杯の水を持ってきて入れましたね。井戸の奥深くには最初から水はあるのです。地下深くに潜っていたその水を桶一杯の水で呼び覚ました。一度水がわき出れば、めったなことでは枯れることはございませぬ。まさに我々の信仰と同じでございませぬ。

みなさまは本日秋葉様の大祭に詣でられ、まさにこの御真殿で行をされています。秋葉様と一体になられているわけです。

秋葉様の三つの大誓願

秋葉様は、私たち衆生を済度してくださるために、三大誓願をおこしてこの火防霊場を開かれました。

第一我を信ずれば失火と延焼と一切の火難を逃がす

これは当時は火が一番怖いわけです。日本の家は全て木と紙でしたから、あつという間に燃えてしまふ。自分がいくら気をつけても、「あれ、火を消したかな」なんてことはございませぬ。それから類焼も怖い。自分の注意とは関係なく巻き込まれてしまひます。

第二我を信ずれば病苦と災難と一切の苦患を救う

病といひますのは誰でも罹ってしまうものです。お釈迦様の頃から生老病死といひまして、四苦の一つに挙げられています。昔でしたら病を得ればもうお手上げ。医療技術が進んだ現代でも、「あなたガンですよ」と言われたら肉体的にも精神的にも苦しい。でも秋葉様は、我を信仰すれば支えたと誓ってくださっています。闘病は辛いことですが、私たちは安心して努力はしましょう。

私も大病をしましたが、お見舞いに来てくださる

方みんな元気そうで、その方々から「がんばってくださいよ」なんて声を掛けられる。ありがたいなと思いつつも、「もうがんばってるよ」なんて思っていました。そういった気持ち、人には言えないような辛さ、苦しみを秋葉様が支えてくださる。

災難というものと同じではないでしょうか。先の震災をみましても、個人の都合や事情など何一つ関係のない自然の驚異。一瞬で世界が変わってしまうわけです。被災された方に「がんばって」と言わないでくださいと良くお聞きしましたね。言うは容易いんですね。行なうのがありがたいんですね。

少し手前味噌になるかもしれませんが、私は山口県の山の中のお寺の住職でございます。県内の若い和尚さんが、被災地にボランティアに行くんですね。山口からですよ。みんながんばっているものですから、私たち世代でバスを買ってあげて、被災地への交通手段にしてみらい、ピストン輸送で通っています。山口からですから、行ったり来たりの時間もつたないとも思うのですが、でもやはり被災地へ赴くということが尊いのです。

こちらでもそうです。齋主老師は東日本大震災で亡くなった方への追悼供養を毎日行じられています。

行なうということが自らの仏の心を開いて、きつと通じるのです。現地に行く人はもつとすごいわけですが、家庭がおりならなかなか行ける人ばかりではありません。また、震災から時間が過ぎてなんとなく忘れかけている方も多い。でも秋葉様は、時間がいくら過ぎようと信じていけばいつまでも抛り所となつて、みなさんの心の根つこの部分を支えてくださるということなのです。

第三我を信ずれば生業と心願と一切の満足を与ふ

なにか物事にあたる時、しんどいこともあります。精神的にぎりぎりのところまで追い詰められることもときにあるかと思えます。そういったときに、見守り、背中を押してくださいるのが秋葉様です。

では、信じる、信仰というのはどういうことでしたでしょうか。先ほど申しましたが、頭で考えるのではなく、行ずるということです。この御真殿内陣の両側に秋葉様のご真言が書かれています。これからご一緒にお唱えしたいと思います。

おん びら びら けん びら けん の う そ わ か
娑婆

こうしたご真言とか念仏というのは理屈なしに大

事、尊いありがたいものです。頭で考えるものというのは、実はたいしたことではありません。だってみなさん、お母さんのお腹のなかにいた頃あれこれ考えていましたか。なにも考えていませんでしたね。といいますか覚えてもいない。それでも、あなたは生きていましたよ。

ここで申し上げたい大切な仏様の教えがございます。それは、あなたが気がつこうが気がつくまいが、あなたの命は支えられているということです。その証拠に、記憶もないのにお母さんのお腹のなかで安心して生きていた。

私は戦後のどさくさの真っ只中、昭和二十三年の生まれでございます。最近はいぶくたびれてきまして、特に置き忘れをすることが多いんです。ですから私は車の鍵を五つ持っております。といいまして、今は三つの所在しか明らかになっていません。あとの二つはどこにいったかわからないのです。でも、「なんでここにいったかな」と思うようなところからいつか出てきます。いまだどこにあるのかわからなくても、あるという安心感なんです。

実はこれが結構大切でして、みなさまの命と同じなんです。命があると安心しますでしょう。だけ

ど普段、命がどこにあるかなんて気にしていますか。私たちの身体は細胞の集まりです。でもいつも意識していますか。「この細胞ががんばってるな」なんて思っ過ぎていませんか。ただど体のほうでうまくやってくれている。命というのはそういったものなんです。あなたが悩んでどうにかなるものではない。悩んでも解決しないということは、悩まなくてもあなたの命は支えられているということなのです。これが信仰なのです。理屈や言葉というのは架空のもので

ここに口ウソクが燃えています。この口ウソクの炎に指を近づけますと「あちっ」となります。けれども「炎」といくら言ったところで熱くもなんともありません。言葉というのは架空であってそのものの真実や本質ではありません。人間が便利のように置き換えているだけです。考える、なんていいいまして、結局は架空である言葉の集まりで判断しているわけです。そんなものより、命の真実が大事。目に見えなくても、意識しなくてもみなさまにも命がちゃんとございますでしょう。それを、あなたが気づこうが気づくまいが守ってくださいるのが観音様であり秋葉様なのです。

本日、こうしてみなさんがご祈禱に参列され、一緒に読経もしてくださいました。それがあなたの奥深くに持つてらっしゃる神仏の心呼び起こす呼び水となっています。聞き慣れないご真言を唱えても、「なんだらう、どういう意味なの」なんて考えずに素直にお唱えする。それが大事です。

この可睡齋の修行僧も大祭を迎える前には、接心と申しまして十二月一月から八日までぶつ続けの坐禪を行ないました。そして昨日までは一日三回の水行です。先ほど白装束を着て齋主老師と共に奥ノ院に向かわれた別火寮の方々は、それ以上に精進潔斎して行を積んで本日を迎えております。自分の持っている神仏の部分の少しでも呼び起こし、秋葉様と少しでも一体になるための行をずっと積んできたのです。これが千三百年に渡って続き、秋葉様は行によって守られてきた。これこそが信仰なのです。

滅し浄められる三毒

先ほどみなさまにご参加いただきました松明道中に続いて護摩供養が厳修され、維那老師によって三徳祈禱のご回向、「仏の三徳の功德力に乗じて我等三毒の炎を滅す」とお唱えがされました。

三徳祈禱といえますのは、仏様の清浄なる心であり真実を明らかにする智徳、一切の煩惱を絶つ断徳、分け隔てなく恩恵を施す恩徳のことで、この功德力によって煩惱である三毒の炎を打ち消すということです。この教えを、可睡齋で修行され、後に永平寺七十一世の禪師様になられた高階瓊仙禪師様が簡潔にこうおっしゃられています。

家焼くな 心を焼くな朝夕に 三尺坊の教え祈りて

先ほど申しましたように、火難というのは本当に怖い。ほとんどのものを失います。ですからそれを気をつけること、と同時に心の炎も消しなさいというんですね。一つは貪りの炎。あれもこれも欲しいという心があまり強いと心が貪りの炎で支配されてしまいます。次が怒りの炎です。イライライライラしてあなた自身を焼き焦がします。最後の一つが「どうせ私なんて」という愚痴の炎。これら三毒は、先ほどの護摩供養で秋葉様から頂戴した御神火によって滅し浄められました。

明朝まで行事が続きますが、どうかみな様にはこの大祭での行により神仏の心呼び覚まし、信仰の生活をお送りいただければ幸いです。合掌

平成二十五年 大般若祈禱会ご挨拶

成願寺住職 小林貢人

大震災二年です。政権一転アベノミクスなどと喜んでる向きもおられますが、大部分の人民は厄介な荷物を負わされ続けのようです。特に復興が遅れて、ないし目安がつかない地域の人、放射能汚染で故郷を追われた方は気の毒の限りです。

この二年、個人地域別の運不運にたいへん差が付きます、六十年前の敗戦時代を超える残酷さと観じられます。早急な対策をと皆で心しても、政経界の動きは如何にも遅い。この寺からの救援など九牛の一毛にも及ばず、気掛かりなことです。

先年秋、当寺で困りましたのが、境内の落ち葉です。成願寺では銀杏やケヤキ、榎などから相当な落ち葉が出ます。例年ですと九十リットルのゴミ袋で七十袋ほどは中野区で引き取ってくれて、区民農園の肥料になっていたんです。それが急に「葉っぱに放射能が付いているから引き取れない」となりまして。仕方ない、例年よりぐんと多く専門業者に引取ってもらいました。焼却炉で焼くと汚染粒子・ダ

イオキシンが出ると近隣住民が怖がりそれでもできません。新発生の苦勞、どう見ても東京電力に責任ありますね。

人間はとかく自然界の物を浪費し、報いはしない存在です。特に約五十年前より、この地球が何億年掛けて貯めた資源を掘出し続け、その進行は加速するばかりです。そして人間生活を便利快適にくれる反面、恐ろしいゴミを続々もたらしております。

私達は「ゴミ慣れ」の生活に浸っています。それを反省し無駄を出さぬ工夫を考えたいものです。

さて今年、私の目標は、時間を無駄にしないということです。人間というのは歳をとるとだんだん残りの時間を意識するようになります。人生の長さを思う時、七歳の子供なら一年は一生の七分の一の長さ、八十歳の人間には八十分の一と短い。光陰は矢よりも早いです。

ですから今年はいがなばって、重い時間を過ごしたい。みなさんもうかが有意義に一日一日、またこの瞬間瞬間を大切にお過ごし頂けますよう、これからご祈禱致します。

合掌

秋の一泊観音詣りの報告

四回目を迎えた坂東三十三観音霊場巡り。今年ははじめに群馬県屈指の名刹仁叟寺を参拝したのち、十五番から十八番まで巡拝しました。

成願寺に朝七時集合、観音堂にてご祈禱後、関越から上信越道へとバスは進みます。天気は良好、渋滞もなく、途中雪化粧の富士山を遠目に眺めながら予定より早めに仁叟寺に到着。惣門を入ると宝暦十一（一七六二）年建立という入母屋二階櫓造りで、金剛力士、五百羅漢が安置される山門、県指定の天然記念物力ヤの巨木が迎えてくれました。客殿にてお茶のおもてなしを受けながら、おみやげにご用意いただいた力ヤの実のこと、お寺の由緒などについて、ご住職の渡辺啓司



大変なくま内山から住職で叟仁寺
一行をいただく案内のご案内

老師より丁寧なお話をいただきました。初代住職お手植えという力やは樹齢五百五十年。その実を御年九十歳の先代ご住職が一粒一粒拾い、果肉部分を取り除いて洗って天日に干

して丹精込められた品。炒って食すと血行をよくして身体を温めてくれるそうで、仁叟寺様の功德が詰まっているかのようです。

本堂に移ると、須弥壇右手に迦葉尊者、左手に阿難尊者を従えたご本尊のお釈迦様が祀られて、拈華微笑の様子を表しておられます。お経を上げさせていただいた後、正面まで進み出てのお焼香。上州観音霊場・南毛観音霊場の十八番という千手観音、もともとのご本尊であつたという薬師如来を参拝。広大な境内には遊歩道があつて、中国五台山顕通寺ご分身の文殊菩薩が安置される文殊堂、薬師堂などをゆっくり拝観させていただきました。



長谷寺

四十分ほどで十五番白岩観音長谷寺へ到着。役ノ行者開創の金峯山修験本宗という修験道のお寺で、天井に舞う天女に見守られながら秘仏十一面観音に読経させていただきました。お昼は日本三大うどんの一つ、名物水澤うどんの喉ごしを楽しんで十六番水澤観音へ。



水澤寺の地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、
天の六道を守る地蔵尊



吹き割の滝

木々に囲まれた参道を進むと、朱塗りのご本堂が密教寺院の赴きで、やはり秘仏という十一面観音、光背が特徴的なお前立ちの観音菩薩に参拝。県指定の重要文化財六角二重塔の開運六地藏は手で押すと経蔵のように回転する仕組みで左に三回廻すと供養となり開運に繋がるそう。早速功德を積む一行でした。帰りに寄った釈迦堂は宝物館になっていて、開創当時の平安時代から守られてきた釈迦三尊像、千手観音の眷属二十八部衆など貴重な仏像が数多く安置されていて見応え充分。地元の産物を売る土産物屋を覗いた後、大正ロマンの代名詞竹下夢二伊香保記念館へ。有名な美人画だけでなく、詩人であり装丁家でありデザイナーであった夢二の作品を潇洒な



中禅寺で記念撮影

洋館で楽しみました。宿は伊香保温泉の老舗旅館「福一」。湯質の良い温泉で旅の疲れを癒しました。翌朝は八時半出発。東洋のナイヤガラとして知られる吹き割の滝へ。滝と言っても高い所から落水するのではなく、浸食された岩の割れ目に川の水が吸い込まれていく様が大迫力。片品川の流れに沿って見頃の紅葉と奇岩が連なる岩壁群を見学しました。

バスは金精峠を越え中禅寺へ向かいます。車窓に広がる山並みは、常緑樹と紅葉、冬枯れした木々、山頂付近には雪もあつてなんとも美しいコントラスト。お昼は中禅寺湖畔で洋食をいただいて、十八番立木観音中禅寺へ。ご開山勝道上人が桂の立木を一刀彫りしたと伝わる御本尊十一面千手観音は千二百年前のお姿。そのたくさんのお手で願い事を叶えてくださると説明を受けた後、五大明王が安置される境内最高所の五大堂を拝観。目の前に広がる中禅寺湖と男体山の大パノラマを楽しんで成願寺への帰路へ着きました。(一)

秋葉の火祭り・火防大祭参拝旅行の報告

成願寺の行事として約二十年ぶりに東海地方の名刹可睡齋「秋葉の火祭り」に参列いたしました。

観音堂にてご祈禱後、九時出発。雨の新東名高速をバスは進み、午後二時には可睡齋門前に到着しました。昭和十二年建立という日本画家山口玲熙の四季折々の花鳥画も美しい瑞龍閣が今夜のお部屋で、文化財さながらの大部屋で茶菓のもてなしをいただき休憩。その後、御真殿にて大祭大祈禱がはじまると、秋葉様を奥ノ院にお移しする神輿渡御、松明道中、三徳祈禱、手筒花火の奉納、山払い、七十五膳御供式、ご法話、神饌のお授けと真夜中まで行事が続きました。特に楽しみにしていた松明道中は、秋葉様の御神火を松明に移し、門前より法堂前に特設



松明を護摩壇へ納め無病息災を祈念



薄暗い御真殿で別火寮僧侶によるご祈禱



御供式を終えられた齋主老師



御神饌をいただく参列者



可睡齋法堂前で参拝団一行の記念撮影

された火防霊場へと行列して、護摩壇に松明を収める儀式。成願寺参拝団からも代表二名が大きな松明を担当して、それに続いて炎の勢いも高らかな護摩壇へと歩みを進めました。幾人もの僧侶の読経、煩惱を滅し浄める清浄なる炎、途切れることを知らない松明道中の人々、いつの間にか秋葉三尺坊大権現様が威厳を払いながらその様子を見守ってくださいました。

翌朝には奥ノ院にてご祈禱後、秋葉様の神輿の還御に参列して可睡齋を後にしました。その可睡齋と並んで遠州三山に上げられる油山寺、尊永寺を巡拝。帰りに日本一の千手観音様が祀りされる焼津の全珠院を参拝して、成願寺への帰路へつきました。合掌

可睡齋、秋葉の火まつり

轡田 安

東海道屈指の禅寺可睡齋。松林におおわれた境内に本堂、方丈、書院などが立ち並び、一段高い所に秋葉三尺坊大権現の御真殿がある。火伏せの神様として信仰を集め、参詣者が絶えないこの寺の火祭りに成願寺観音堂でお経を唱えた後、バスにて向かった。曇りの空は東名高速に入ってとうとう土砂降りになる。

視界なきしぐれに濡れる東名道
今宵の火まつり想いめぐらす

袋井のインターおりれば雨はあがり
越えてゆくべき稜線が見ゆ

おごそかな読経のなかに夫の名と
吾の名きこゆ家内安全

松明をかかて歩く行列の
火の子散らばう殿がりにつく

松明の火の子は天を染めあげて
法螺貝の音にいざなわれゆく

早朝の見あぐる空に明星の
凜たりビーナスと呼ぶにふさわし

秋葉の火まつり参拝旅行に参加して

岡本 京子

火渡り、松明道中がおもしろそうという単純な興味から参加いたしました。可睡齋での体験は、時空を超越したような濃厚で貴重なものとなりました。

十二月十五日午後二時可睡齋到着。三時から大祭大祈禱法要。一連の行事の始まりです。ご神鉢の奥之院渡御をお見送りし、四時にご祈禱。夕食の後、六時三十分から広場にてファイヤーダンスがあり、その後松明道中に参列し護摩壇に松明をおさめる。護摩壇の火をかこみ修行僧の読経の声響く中、向かい側には秋葉三尺坊大権現なる天狗が仁王立ちになりそのうしろでは手筒火花が打ち上げられている。雨も降り出し火渡りは中止。部屋に戻り、秘法七十五膳御供式まで休憩。結果をつくるから外に出ないようにとの放送が流れる中、すでに私の頭の中は懷疑的になり大混乱していました。

この一連の行事にどんな意義があるのだろうか。二十三時三十分御真殿へ集合。ご祈禱の後、白の淨衣と白袈裟に身を包み白い鉢巻、印象的な白いマスク、白装束の齋主老師と僧侶があわただしく出立されました。御供式の間、法話がありました。

繰り返される般若心経に辟易し、修行僧に冷やや

かな目をむけていた私の心を見透かしているかのよう
に、疑問の答えがすべて法話の中にありました。
可睡齋の歴史、秋葉様の由来、神仏混合、三尺坊様
三大誓願、三徳の炎、天地同根、坐禪と宇宙等々。
真夜中にもかかわらず身を乗り出し聞き入りました。

翌十六日早朝お御輿が御真殿へ還御されます。朝
五時半ごろ御真殿前に集合の放送がありました。誰
もない御真殿の前は暗闇にもかかわらず静寂と包
み込まれるような安心感がありました。明け方の空
を見つめながら、私の体がまるでジグソーパズルの
ようにガラガラとくずれ、再生していくようなそん
な感じがしました。法螺貝とともに目の前を通る御
神輿とそれに従う人々を静かに見送り、そのまま御
真殿にて還御されるのを待ちました。目の前の行事
をただ素直にそのまま受け入れている自分がいまし
た。「理論ではなく体をもつてくることが大切。」そ
の意味を理解したような気がします。心をこめて最
後のご祈禱をし、可睡齋をあとにしました。自宅に
戻りいつもと同じ様に次の一日が始まりましたが、
何かが体に入っているような不思議な感覚の朝でし
た。霊験あらたかな三尺坊様とのご縁を結ぶ機会を
与えていただき感謝しております。

日掌

山内短信

◎春彼岸中日法要「修証義奉読会」のお知らせ

三月二十日（水） 春分の日

午前十一時～ 受付 午後一時 檀信徒総回向

◎観音詣りのお知らせ

*春の観音詣り 四月二十九日（昭和の日）

成願寺朝七時集合・ご祈禱後出発―常磐道―坂
東二十六番清滝寺―二十五番大御堂―ケーブル
カー―筑波山山頂散策―二十四番雨引観音樂法
寺―昼食樂法寺本坊にて「葉膳中華茶房『三笠』」

―夕五時半帰着予定 【会費】一万三千元

*秋の観音詣り 十一月十一日（月）―十二日（火）
続けて坂東霊場を巡拝します。詳細は次号。

◎寄宿生募集

当寺境内及び近辺に寄宿し、学校等に通う勤勉な
若者を若干名受け付けます。朝の行事（作務・朝飯）
に参加。七時以後自由。僧俗・性別・国籍不問。作
務は有給。寺務所にお問い合わせ下さい。

*メールアドレス「ogamu@nakanojouganji.jp」

*成願寺ホームページは、検索サイト「Yahoo!」「Google」など
から呼び出せます。「URL <http://www.nakanojouganji.jp/>」